

社会福祉法人中央会 令和5年度事業報告

【施設方針】

施設理念 「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」
の実現に取り組む。

1. 令和6年能登半島地震

1月1日に発生した能登半島地震は、石川県を中心に大きな被害をもたらした。ピーク時は約3000人余りが孤立状態となり、その後は大きく減少したものの5つの地区の26人が孤立状態と聞いている。当施設でも1月2日に「福祉避難所」として能登からの被災者を受け入れた。当初は受け入れのマッチング機能である県ケアマネ協会からの情報が錯綜し、対応の遅れに被災者の方々の安否に不安を感じていたが、直接家族からの問い合わせもあり、結果的に直接家族とのやり取りの方がスムーズに受け入れすることが出来た。また、自衛隊の車で輪島から来られた方も居られたが、市内の避難所へはこちらから迎えに行っており、ご家族と顔を会わすことでお互いに安心感を得ることが出来た。

現在は被災された5人のうち1名はケアハウスに入所され、1名は珠洲の入所先施設が復興し戻られた。あとの方は入院が1名、そのまま特養入所に至った方が1名、もう一人の方はまだ福祉避難所として利用されている。

2. 新型コロナウイルス感染対策

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、2023年5月8日より「5類」に移行となった。しかし、高齢者施設においては感染による重篤化が深刻な問題となっており、季節性インフルエンザも合わせて感染予防として看護師を中心とした感染委員によるラウンドを行い、介護職員へ実地指導を行った。また、「感染者及び濃厚接触者聞き取りシート」から情報収集し迅速に対策を講じ、施設内職員間での情報共有に努めた。石川県から高齢者施設等従業者と入居者様に新型コロナウイルス抗原定性検査キット支給があり施設で検査が実施出来たこと、コロナワクチン接種とインフルエンザワクチン接種が優先的に実施出来た事が予防につながったと考える。

3. 施設の感染状況

昨年6月にグループホーム式番館において、職員によるコロナウイルス持ち込

みが原因で、入居者様や職員に感染が広まりクラスターが発生した。金沢市保健所の指導のもと、感染対策を見直し重篤者を出すことは無く、特別養護老人ホームの入居者様やその他の施設内感染に至ることは無かった。また、ショートステイやデイサービスでコロナ感染した利用者様もいたが、昨年度と比べ件数は減り、蔓延までには至らなかった。

4. ウイズコロナの施設運営

面会については、職員が同席しパブリックスペースでの面会を実施。今年の4月から面会ルールは変更せず、自室内での面会を再開したことで、入居者様・ご家族様に喜んで頂いている。また、昨年秋に特別養護老人ホームの家族懇親会を開催し、ユニット内をライブでのビデオ上映を行ったところ、日常の様子がうかがえ安心したと大変喜ばれた。

地域との交流は今年度予定していた米泉町の子供神輿が雨天のため中止にはなったが、伏見高校の学生は小規模多機能で体験学習を実施することが出来た。ボランティア交流については直接利用者様との接触は避け、今年の5月から再開を予定している。また、施設内のレクリエーションや行事は昨年引き続き季節に応じた内容で開催し、外出レクリエーションはドライブや伏見川沿いのお花見散策を楽しまれた。

5. 職員育成

今年度は重点研修として食事の介助方法について学んだ。5回にわたり当施設の看護師が講師となりビデオ研修の後、実践を交えての指導を行った。食事介助時の姿勢や食材の形態など注意する視点を改めて学ぶことで、誤嚥防止に努め安全に食べて頂くことが出来た。職員からは「食事介助の方法一つでソフト食にすることなく、今までの食事を継続することが出来た」「ポジショニングの大切さが分かった」など 好評を得ることが出来た。

6. 職員の採用と定着

令和5年度は特にグループホームでの退職者が続き、結果的に派遣職員が8名に増えることとなった。新卒者はいなかったが、中途採用に5名が入職され、その内4名が安定して働いてもらっている。現在の雇用者数は95名、平均年齢は依然として40台後半ではあるが、体力に応じて働いていただいている。今年度は新卒者が5名入職し、転勤等で退職された方も復帰を予定している。また、2名の方が育児休暇を取得され、今秋には復帰を控えている。

7. 看取りの取り組み

特別養護老人ホームの退居者は12名、新しい入居者が12名と入れ替わりが多かった。退居者のうち看取り退居が3名居られ、そのうち1名のご家族様は遠方より面会に来られており「生きている間に顔を見ることが出来て良かった」と感謝の言葉を頂いている。グループホームにおいては双方ともに看取り退居の方はいなかった。

8. 経営基盤の強化と確立

(1) 令和5年度目標達成状況

特別養護老人ホーム、ショートステイ・グループホーム、グループホーム式番館は令和5年度稼働率目標を達成する。小規模多機能は目標に至らなかった。

【令和5年度稼働率】

事業所	令和5年度目標	結果
特養	97%	97.2%
ショート	98%	101.0%
グループホーム	97%	98.3%
グループホーム式番館	97%	98.5%
小規模多機能	88%	70.5%
デイサービス	76%	75.3%

デイサービスは目標達成とはいかなかったが、前年に比べ延べ人数698人増え、要介護者においては前年比1060人増えている。新規獲得に向け営業や個別での機能訓練、マッサージを充実する事で利用者拡大につながった。小規模多機能の不振は、入院や施設入所が重なり、新規獲得に及ばず稼働率の低下を招いた。

(2) 人件費について

前年度に比べ、退職給付支出を除くと増額となり、人件費率も1.1%増加した。令和6年度は新規採用として5名入職しており、派遣職員を減らす方向でいる。

行政より介護職員等の賃金改善を目的として頂いている処遇改善加算の支給額が今年度も約560万円あり、人員の入れ替えと共に給与のベースアップを図ることができた。

(3) 事業費について

前年度に比べ、約370万円の増額となった。特に令和3年以降光熱費は高騰し前年度も約75万円増額となった。行政より「物価高騰対策支援事業」として合わせて約600万円の補助金を受給したことで補填は出来た。給食費においても食材費高騰から約180万円の増額となり、「物価高騰緊急対策福祉施設等食材料費補